

外国語活動－４（第６学年）相手意識をもって積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する事例
【学習活動の概要】

1 単元名 未来へ提案！ ～こんな車，どうですか？～

2 単元の見目

未来の車として考案した自分たちのデザインをアピールし合い，クラスの代表作を決める活動を通して，車のよさを伝える表現や感想を伝える表現に慣れ親しみ，積極的にコミュニケーションを図ろうとする。

3 評価規準

【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

・考案した車について，互いに理解できているかを確認しながら尋ねたり発表したりしている。

【外国語への慣れ親しみ】

・車の特徴を示す英語表現や，感想や理由を述べる英語表現を聞いたり，言ったりしている。

【言語や文化に関する気付き】

・自分の思いを伝えるには，相手のことを考えながら言葉を使うことの大切さに気付いている。

4 教材

本単元は，外国語活動の経験が豊富にある高学年を対象としたものである。「未来に提案する車」を題材に，そのデザインを考え，そのよさを伝え合う活動を行う。社会科の「わたしたちの生活と工業製品」の単元で自動車工業について学び，社会見学で自動車工場を見学した学習経験を生かすことができる内容である。また，単元の終末には，地域の自動車会社の社員の方を授業に招き，児童のアイデアを聞き助言をいただくとともに，デザイン画を会社の開発部に送付しコメントをいただく。

5 主な学習活動

(1)単元の展開（全 9 時間）

時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点
1	七種類の車の説明を聞き，どういう理由でどの車が気に入ったのか意見を伝え合う。	・車の特徴を説明する表現を理解させる。 ・理由を明らかにして考えを述べさせる。
2	七種類の車のうち，未来に提案するとよい車とその理由を意見交換する。	・絵や写真を指し示し，話し手の言葉を引用しながら，理由を述べさせる。
3	三人の先生の提案する車について意見を交換し，未来に提案する車ベスト1を決める。	・分からない言葉があっても，類推しながら話を聞かせる。
4	グループでアイデアを出し合い，未来に提案する車のデザインを考える。	・聞き手の理解を確認しながら話させる。 ・ジェスチャー等，非言語の手段も活用させる。
5	自分たちの車のアイデアを説明する練習をする。	・絵や写真を指し示し，聞き手に質問しながら話に引き込むように話させる。
6・7	学級内でグループごとの未来の車のアイデアを伝え合う。(本時：7/9)	・理解を確かめ合いながら伝え合わせる。 ・情報を引き出す質問をしながら聞かせる。
8・9	(他クラスの仲間との交流)	

(2)本時の学習

目標

未来の車についてアイデアを伝え合うことを通して，自分の理解の状況を示し，必要に応じて問い返しながら聞いたり，聞き手の理解の状況を確認，質問を織り交ぜて話に引き込みながら話したりしようとする。

本時の展開

- ① ALT の「未来に提案したい車」のモデルアピールを視聴する。
- ② グループ内で，聞き方・話し方のポイントと英語表現を再確認し，説明の練習をする。
- ③ 聞き手と話し手を前・後半で交代しながら，グループ間で車のアイデアをアピールし合う。
- ④ 前活動を踏まえ，学級全体で未来に提案する車のよいアイデアについて意見交換する。
- ⑤ 振り返りをする。

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

小学校学習指導要領 第4章外国語活動 第3指導計画の作成と内容の取扱い1(4)「指導内容については、児童の興味・関心にあったものとし、国語科、音楽科、図画工作科などの他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により、指導の効果を高めるようにすること。」と、2(1)ウ「言葉によらないコミュニケーションの手段もコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、ジェスチャーなどを取り上げ、その役割を理解させるようにすること。」、オ〔コミュニケーションの働きの例〕として、「(イ) 気持ちを伝える」「(ウ) 事実を伝える」「(エ) 考えや意図を伝える」とを取り上げて指導するものである。

【言語活動の充実の工夫】

低学年より外国語活動を経験している高学年児童は、外国語を聞いたり話したりすることにかなり慣れ親しんでいる。そのためか、外国語を聞いて分きたい、自分の思いを外国語で表現したいという思いが強いようである。そこで、相手意識をもって相手の理解の状況を図りながら話したり、自分の理解の状況を相手に示したりすることが、よりよいコミュニケーションにつながることに気付かせるよう、次のような工夫を行った。

○グループごとに未来の車のアイデアを交流する

児童は、グループごとに、未来に提案できる自動車のデザインを考え、英語でアイデアを伝え合う。その後、学級内で最も人気の高いデザインを投票で決める。そのため、児童は、何とかして自分たちのアイデアのよさを仲間に伝えたり、理解したりしようとする。そこで、互いに自分たちのアイデアを理解し合うために、相手意識をもったコミュニケーションの在り方を体感させる。たとえば、発表する側は、絵や写真、具体物等を指し示しながら、相手の理解の状況を、"OK?"と確認したり、必要に応じて言葉を強調したり、繰り返したり、別の言葉で言い換えたりする。聞く側は自分が理解できているかどうかを表情や言葉で示し、必要に応じて繰り返しを求めたり、問い返したりしながら聞く。今回の活動では、説明する内容のすべてが、自分たちのオリジナルのアイデアである。そのため、各児童は相手のアイデアを聞こうとし、また自分のアイデアを理解してもらおうと、相手意識をもって意欲的に言語を使ってコミュニケーションを図っていた。

このように、相手のことを考えながら聞いたり話したりすることで、互いの理解がより深まることに気付かせ、気持ちのよいコミュニケーションを体験させることが、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながる。

